

# ガロンの秘密

中学校第1学年

目標 牛乳を通して日本と海外の食文化の違いを考え、牛乳料理の多様性に関心をもつ。

生活課題(または既学習内容など) 牛乳の栄養等の大切さについて小中学校で学んでいる

	支援及び留意点 ①②：教師の問いかけ、◎留意点、●想定される生徒の発言、→教師の発言	資料
導入	<p>①クイズ。この容器に入れて売られているのはなんでしょう。 ガロンの容器(写真)を見せる →答えは牛乳。1ガロンという単位で3.8Lあります。外国ではこのような大きな容器で売られていることがあります。これはアメリカの牛乳です。</p>	1. ガロン容器(写真)
展開	<p>②牛乳は、外国でも日本でも賞味期限はほとんど同じ。どうやってこんなにたくさんの牛乳を消費しているのでしょうか。 1. 大家族で飲んでいる 2. 1人当たりの消費量が多い 3. 牛乳風呂に入っているから →答えは2。</p> <p>③世界の牛乳消費量のグラフを見てみましょう。 ◎日本と世界の牛乳消費量を比較させ、その差に注目させる。 ◎グラフの縦軸や横軸の意味を、資料出典の掲出時におさえる。 →日本は少ない。 →フィンランドやアイルランドは、世界の中でも牛乳を多く消費している国だとわかります。</p>	2. クイズ(イラスト)  3. 各国の牛乳消費量(グラフ)
	<p>④どうやって牛乳を食べたり飲んだりしていると思いますか。 ●シリアルにかける ●たくさん飲む ●料理に使う →フィンランドでは、牛乳を飲むだけではなく、料理やお菓子にも使われています。 →例えばパンケーキ。日本では、粉100gに対して牛乳はおよそ50～100mL、一方でフィンランド式のパンケーキだと粉100gに対して牛乳200～500mLも使います。</p>	4. パンヌカック(写真) パンヌカック：フィンランド式パンケーキ
つなげる	<p>⑤日本では牛乳を飲んだり、ヨーグルトやチーズを食べたりしますが、牛乳を使った料理は多くありません。世界にはどんな牛乳料理があるか調べてみるとおもしろそうですね。 (今後の展開) 生徒が調べた牛乳料理を給食の献立として提供する</p>	

## 評価の観点

食文化の違いに気づき、牛乳利用の多様性に関心をもつことができたか。

掲示教材

1. ガロン容器(写真)

**Q** この容器に入れて売られているものは？



2019年度 国土交通省農林部政策課 乳加工課乳牛人畜共通感染症防除課 担当

2. クイズ(イラスト)

**Q** 外国でたくさんの牛乳が消費される理由は？

- 1 大家族だから
- 2 1人当たりの消費量が多いから
- 3 牛乳風呂に入っているから



2019年度 国土交通省農林部政策課 乳加工課乳牛人畜共通感染症防除課 担当

3. 各国の牛乳消費量(グラフ)



4. パンヌカック(写真)



## 講評

- 本指導の着眼点のよさは、牛乳の容器や料理を通して文化が見えてくることです。見えない食文化に、容器や牛乳料理という見えるものを通して気付いていく、授業の基本原理が確認できます。また、生徒の関心や問いを引き出した後に、牛乳消費のデータを示すことによって資料の読み取りを意味のあるものにしていく、こうした指導も大切です。
- 本指導の終末には、日本には、牛乳を使った料理はあまりないこと、世界には、色々な牛乳料理が多くあることに関心をもたせています。短時間指導で生まれた生徒の関心事をきっかけにして自分たちでも調べてみるというオープンエンドの展開も重要です。
- フィンランド式のパンケーキがたくさんの牛乳を使うこと、パンヌカック(フィンランド式パンケーキ)の写真などの資料やデータが指導を深い学びにつなげています。学校外のこうしたリソースを今後も積極的に指導に生かしていきたいものです。
- 諸外国のスーパーマーケットの食品売り場の写真が手に入ったら日本のものと比較してみると、食品の種類や量の多さ、特徴が見えてきます。そこから食文化への気づきが生まれます。

## [監修・評価]

武庫川女子大学教育学部教育学科 准教授 藤本勇二 先生